日本共産党 福山市議団

いのち・くらしを守るため力を合わせましょう

子育て

父母の願い「子どもが欲しくても産めない」「安心して子どもを育てたい」

保育料軽減・医療費完全無料・放課後の居場所を

羽田皓市長(中央)に子育て、教育、くらしの願いを訴える母親代表。日本共産党市議団が同席＝12月15日

土屋議員は本会議で、子育ての願いを代弁しました。

お母さんたちが羽田市長と懇談

お母さんたちは12月15日、羽田皓市長と懇談し、代わる代わる思いを語りました。

「保育料が高いです。子どもが欲しくて産みたくても、経済的に困難です」と語った幼い子を持つお母さん。「保育園では、はしか、水ぼうそう、おたふく風邪と、子どもは次々と病気にかかります。経済的に苦しくて、仕方なく市販の薬で、という保護者も少なくありません。子どもの医療費助成を完全無料にしてください。また、現行の公的保育制度を堅持・拡充してください」と保育士さん。

「中学校給食をお願いします。働きながらのお弁当作りは、栄養あるものにどうしてもなりません」と中学生の子を持つお母さん。「小学生の孫が授業についていかれず心配です。35人学級を早急に実施してください」と訴えた祖母。

羽田市長は「現場の声を聞かせていただきました。市として議論し、努めてまいります」と述べました。

11月4日には、保護者代表が羽田市長に、「放課後児童クラブは、国の基準である41人以上の教室を分離・増設し、子どもの『生活の場』にふさわしく整備・充実を」「児童館など放課後の居場所整備を」との要望書を3,346筆の署名とともに提出しました。

土屋議員は市長に対し、こうした切実な願いをしっかり受け止め実現するよう強く求めました。

放課後児童クラブ 新たに4クラブで教室増設

放課後児童クラブの児童数が増え、教室が狭く子どもたちが楽しく安全にすごせないクラブがあります。党市議団は父母らと教室増設を要望してきました。新たに4クラブの増設予算が実現しました。

障害者

自立支援法は廃止しかない

人間らしく生きる権利保障を

自立支援法により、障害者はサービスを断念、利用びかえをしています。事業所は報酬が大幅に削減され、労働条件切り下げを余儀なくされています。土屋議員は、応益負担の廃止、報酬単価の大幅引き上げ等を国に要請することを求めました。市として、障害児に必要な福祉サービスを提供し、放課後や長期休業の生活保障制度を確立するよう迫りました。

中小業者

銀行の融資拒否正せ

「緊急保証」全業種に

中小企業の資金繰りが非常に困難です。

土屋議員は、「市は、金融機関に貸し渋り・貸しはがしをしないよう強く要請を」と迫りました。保証料・利子の補給や、「緊急保証」から外れている業種への保証制度を、市として実施するよう求めました。

「私達の働き分を認めて」と所得税法第56条廃止を求める業者婦人の代表。＝11月28日

生存権

健康で文化的な生活を営む権利の危機

生活保護・住居確保・受診

生活保護施策の適正実施・拡充の要望書への回答を福山市から聞く市民団体代表。党市議団が同席＝11月21日

貧困が広がり生存権がおびやかされる深刻な事態です。党市議団は、市民団体と共同し、生活保護・住居確保・受診などいのち綱となる福祉制度の充実を求めています。

75歳以上の高齢者から保険証取り上げない

後期高齢者医療制度では75歳以上の人は保険料が年金から天引きされ、1年間滞納したら保険証が取り上げに。党市議団は制度発足前から追及。今回、市は「資格証は発行しない」と答弁しました。

地球温暖化対策

CO_2排出量 公開義務違反

JFEに開示請求を

温室効果ガスの大口排出事業所は、排出量を国に報告することが義務付けられています。今回、対象事業所中0・3％の36事業所が未報告で、JFE福山はその一つです。

NGO「気候ネットワーク」の推計によると、JFE福山は全国で2番目に多い排出量となっています。土屋議員は、「市はJFEに数値公表を求めるべき」と迫りました。

福山道路等

交通量推計値は下方修正

大型道路建設は中止を

国交省が将来の自動車交通量の推計値を下方修正しました。2005年に比べ2030年には2・6％減、2002年の従来推計から13％の下方修正です。道路計画の費用対効果の計算方法も見直されます。福山道路等の計画も、その必要性が再検討されることに。土屋議員は、ムダな大型道路計画は「中止せよ」と迫及ました。